

行事

▼「木太刀の舞」で豊作祈願

御厨町寺ノ尾上地区にある八幡神社で12月15日、江戸時代から伝わる「木太刀の舞」が奉納されました。

イタビの木で作られた太刀は、大きいほど翌年は豊作になるとの言い伝えがあります。

氏子の久保^{ひのぶ}信さんが朝から2時間かけて作った太刀は、長さ1・5^m、重さ22^{kg}。今福神社の早田伸次^{のぶ}禰宜が木太刀を担ぎ、笛や太鼓に合わせて舞を奉納し、集まった氏子ら約20人が来年の豊作を祈りました。



▲もぐら打ちで無病息災を祈願

星鹿町星鹿地区で1月6日、伝統行事のもぐら打ちが行われました。

新わらを束ねて作った約1^mの「もぐら打ち棒」で、玄関の床をたたいて、無病息災や家内安全を祈願する伝統行事です。

この日は、小学1年生から中学1年生の10人が、地区内の130戸を二手に分かれて回り、「祝いましょ祝いましょ この世の年に祝いましょ 祝いの餅をくれたなら 末も繁盛 世もよかる…」の口上に合わせ、元気いっぱい玄関の床をたたきました。



▶市内各地で鬼火たき

1月初旬、市内全域で鬼火たきが行われました。鬼火たきは、しめ縄や門松に火を放ち、一年間の無病息災や家内安全などを祈願するものです。

調川町松山田地区では、久保川^{しまる}志丸さん(55)が昨年11月末に完成させた高さ6.5^m、幅約5^mの四角すいの鬼小屋の中に、地区の住民らが持ち寄った門松などを入れました。久保川さんが鬼小屋に火を放つと、あっという間に多くの煙を出して燃え上がりました。





◀ 今年は豊作！

— 百手講で9本の矢が命中 —

志佐町庄野地区の王嶋神社で1月8日、庄野地区の伝統行事「百手講」が行われました。

これは、的に当たった矢の数で今年の豊凶を占うもので、市の無形文化財に指定されています。

今年の射手は、猪口猛さん(45)、北川浩幸さん(44)。烏帽子と狩衣姿の2人が約10m離れた場所から直径50cmの的にめがけて32本の矢を放ちました。集まった約50人の住民が見守る中、9本を的に命中させ、中川明宏宮司は「例年より好成績。今年豊作になるでしょう」と話していました。

▶ 経箱くぐって無病息災

大般若という経典が入った経箱の下をくぐって1年間の無病息災を祈願する「大般若」が、1月8日から11日にかけて、志佐町の8地区と福島町の4地区で行われました。

江戸時代、この地方に疫病が流行したとき「大般若」に願を懸けて疫病を退散させたのが始まりとされています。

志佐町里地区では11日午前8時から、同地区住民ら8人が「だいはんにゃー、だいはんにゃー」と大声で叫びながら、重さ約10kgほどの経箱を担いで区内を回りました。



◀ 大杯で酒を回し飲み

12月24日、志佐町池成地区に約300年以上前から伝わる「佐々木祭」が行われました。

池成地区には、平戸藩士でこの地域を治めていた「佐々木様」が、参勤交代で留守にしている間に妻の不義のうわさを耳にし、大酒を飲むようになったという故事が残っています。

今では「佐々木祭」として、先祖が佐々木様の同士だった同地区の5世帯が、命日といわれるこの日に持ち回りで毎年開催しています。

地区にある佐々木様の墓参りをした後、今年の当番にあたる深江国男さん宅に8人が集まり、直径40cmの大杯で酒を回し飲みし、霊を慰め親ぼくを深めました。

